

# 長野県知事の意見

(穂高広域施設組合（仮称）穂高クリーンセンターごみ処理施設整備に係る環境影響評価方法書)

## [全般]

- 1 準備書の作成に当たっては、現有施設との比較、スケールを適切に設定した図表の作成等により、住民により分かりやすい図書となるよう努めること。
- 2 準備書を作成する段階までに、事業計画の詳細をできるだけ明らかにするとともに、予測及び評価に当たっては、想定しうる範囲で、最も影響が大きくなる条件を設定して行うこと。
- 3 環境影響評価の実施に当たっては、現状との比較を最優先に、現況の環境を悪化させないという観点から評価を実施すること。

## [大気質・悪臭]

- 4 上層気象の観測時期については、四季の特徴を把握した上で、各季を代表する時期に設定すること。
- 5 大気質及び悪臭の調査地点については、周辺の地形起伏や集落の状況等を考慮して、煙突排ガスによる影響を適切に予測及び評価できる地点を選定すること。

## [振動]

- 6 道路交通振動の予測については、国土技術政策総合研究所の最新の資料で示されている予測式を用いること。また、地盤卓越振動数の調査は、ごみ収集車の地盤卓越振動数を測定するよう努めること。

## [低周波音]

- 7 低周波音の評価における環境保全目標の設定に当たっては、環境省の「低周波音問題対応の手引書」の参照値ではなく、Moorhouse の評価曲線などを用いること。

## [水質]

- 8 降雨時のような非定常的な濁水の状況の把握については、その振れ幅などを把握するために、複数回の調査を行うこと。

## [水質・動物]

- 9 事業計画地は三川合流地帯であり、希少な水生昆虫が生息していることから、排水による水生昆虫への影響を予測及び評価するため、水質の調査項目に水温を追加すること。また、水温の変化を適切に把握するため、水質の調査地点を複数箇所とすること。

### [水象]

- 10 事業計画地は地下水位が高いことから、観測井における地下水位の測定については、連続測定の実施を検討すること。また、複数地点での地下水位の測定や河川の水面標高の測定等により、地下水の流れを的確に把握し、環境影響の回避・低減に努めること。

### [植物]

- 11 事業計画地周辺には、希少な沈水型の水生植物が多く生育すると考えられるため、現地踏査だけでなく、たも網等を併用して調査を行うこと。

### [動物]

- 12 事業計画地は三川合流地帯であり、水生昆虫が多く生息していると考えられるため、24時間稼働に伴う夜間照明による影響について、適切な方法で予測及び評価を行うこと。
- 13 現有施設内に猛禽類の利用頻度が高い工作物が存在するため、当該工作物の年間の利用状況を把握し、その結果を踏まえて適切な猛禽類の調査を行うこと。

### [景観・触れ合い活動の場]

- 14 新施設と現有施設が同時に存在する期間が長期に及ぶと判断される場合は、景観に対する影響がより大きくなる両施設が存在する時点でのフォトモンタージュを併せて作成し、評価を行うこと。
- 15 景観に対する影響の評価に当たっては、事業計画地が大町・白馬方面への観光ルート上に位置している場所であることを認識した上で実施すること。
- 16 景観及び触れ合い活動の場について、主要な視点場や触れ合い活動の場の利用状況をきめ細かく調査した上で、調査、予測及び評価地点を適切に選定すること。

### [廃棄物等]

- 17 廃棄物等の発生量については、再資源化率の目標を設定した上で、それを踏まえた予測を行うこと。

### [温室効果ガス等]

- 18 温室効果ガス等については、ごみの焼却に伴う温室効果ガスの排出量と発電や売電に伴う温室効果ガスの削減量をそれぞれ明確にして、予測及び評価を行うこと。